

「転職には「やっぱりね」と「な
んでまた」の2パターンあって、
沢田さんの場合、経歴だけ読めば
失礼ながら断然後者だったと思う。
実際、家族をはじめ周囲も当初は
同じ意見だったそうで、それでも
「ごめんなさい！でもやりたい
の！」と言ってびよんと跳んで
しまった沢田さんの話を聞いてい
ると微笑ましいほどで、やっぱり
仕事って理屈じゃないんだよなあ、
とつくづく感じた記者なのだ。つた。

沢田さんは通商産業省（現経済
産業省）にいわゆる「ノンキャリ
ア」で入省。産業資金や貿易保険
など各課を4年周りで異動するう
ち、初めての「結婚も子育てもし
ながら仕事も最前線」というキャ
リアモデルを築き、いつてみれば
「ノンキャリ女性の星」として走
り続けてきた。そして'98年、急増
するイーコマース（電子商取引）の
消費者保護政策を担当。それまで
のような既存部署ではない、新し
い分野。トラブルも多いけれど、
パワーのあるイーコマースの世界
に、刺激を受けた。その後、部署
は役割を終え廃止に。沢田さんも
2年間の出向を経て、19年の役所
勤めにピリオドを打ち、イーコマ
ースの現場に残ることを決意した。
「あと1年いれば勤続20年で、退
職金の額も上がったんでしょうけ
ど（笑）。できることは全部やった
という思いもあったし、逆に、役
所ではできないことへの悶々とし
た思いも、底流にあった。それな
らいつそ自由になって、現場から
役所に伝えていけばいい。なによ
り、このマーケットの活力を萎縮
させないために、私にはやるべき
ことがある、という気持ちでした」
そして、民間非営利団体「EC
ネットワーク」を立ち上げて1年。
トラブル対策で安易な規制に走る
のではなく、市場を健全に導き、
ネット商取引の慣習を確立すべし
と、希少な経験と人脈を手に東奔
西走の日々。省のためでもキャリ
アのためでもなく、活力ある未来
のために働く。その姿には、四の
五のいわず清々しささえ漂う。

■世界各国キャリアへ、5つの質問

- Q1 仕事を成功させるための縁起かつぎは？
出勤前に、夫と子供の夕飯をつくっておくのが
ですが、限りある時間と材料を手際よく使え
ていい献立ができた日は、仕事も冴えます！
Q2 バッグに必ず入っているもの3つは？
携帯電話。メール用の携帯端末。読む物。
Q3 あなたの街のストレス解消スポットは？
浅草出身なので下町と、水のあるところが好
き。橋の上から隅田川を眺めると和みます。
Q4 理想の週末の過ごし方は？
おつまみをたくさんつくって、焼酎を飲みな
がら、夫とふたり、テレビをデレデレと観る。
Q5 人に言われてうれしい褒め言葉は？
「あなたならできる」「あなただからできた」
自分の存在意義を確認できる言葉。

ネットビジネス躍進の カギはこの人にある。 19年の「お役所、勤務を 離れ、現場主義を貫く

[ECネットワーク]理事
沢田登志子さん

Profile

46歳。大学卒業後、'84年に通商産業省（現経済産業省）へ。19年のキャリアを経て2003年に退職。2006年、ネット取引市場の健全な発展を目的に、民間非営利団体である有限責任中間法人「ECネットワーク」設立。インターネットでの商取引に関するトラブル対策を、消費者と、ショップ出店者・オークション出品者、双方にアドバイスしている（<http://www.ecnetwork.jp/>）。夫と、ふたりの大学生の息子がいる。写真はオフィスにて撮影。



撮影/森豊 取材/剣持亜弥(HATSU)

仕事も人生ももっと楽しく/美しく!
Life is so
precious!